

< もくじ >

1. 第6回「あれから9年わたしたちはフクシマを忘れない」シンポジウム開催のお知らせ	1
2. 2019年度連続講座「人生100年時代、あなたはどうか生きる？」第3回の報告	1
3. 第6回研究会合同イベント「全国初の“終活互助”へのチャレンジ」のお知らせ	2
4. 研究会からのお知らせ	2
5. 各研究会の概要報告	3
6. 後援イベント「あなたはどうか生きる めざせ生涯現役」のお知らせ	7
7. 事務局からのお知らせ	7

1. 第6回「あれから9年 わたしたちはフクシマを忘れない」シンポジウム開催のお知らせ

- (1) 日 時： 2020年1月25日（土） 14：00～17：00
- (2) 会 場： 早稲田大学戸山キャンパス 33号館低層棟6階第11会議室
- (3) テーマ： 帰還しないと決断したふるさととの絆
- (4) 共 催： 早稲田大学総合人文科学研究センター<現代社会における危機と共生社会創出に向けた研究>部門・一般社団法人シニア社会学会「災害と地域社会」研究会
- (5) 進め方： 福島原発事故被災によって「ふるさと」への帰還を断念した人びとにお集まりいただき、自分の人生選択のなかでこれから「ふるさと」とどのように関わっていくのかについて語っていただきます。被災した人びとの「ふるさと」との多様なつながり方を通して、原発事故という特殊災害における地域社会の災害復興での「ふるさと」の意味を問い直します。

※ 詳細については、添付されるチラシをご覧ください。

2. 2019年度連続講座「人生100年時代、あなたはどうか生きる？」第3回の報告

シニア社会学会恒例の連続講座は、第3回が以下の日時と講師によって開催され、おかげさまで盛況のうちに終了いたしました。

<第3回連続講座の報告>

- (1) 日 時：11月30日（土） 14：00～16：00
- (2) 会 場： 東京家政学院大学千代田三番町キャンパス 1301教室
- (3) 講 師： 川村 匡由（武蔵野大学名誉教授・シニア社会学会理事）
- (4) テーマ： 終活のウソ／ホント

健康寿命が伸びている現在、「終活」よりも「老活」が重要であるとしつつ、いずれ迎えることになる死に対する備えをしておくことは、従来の制度やしきたりが崩れている現代に生きるわれわれにとって不可欠です。今回は、変化しつつある制度についていけず、従来の考え方や身近な経験に頼りがちなわれわれの誤解や無理解について、高額療養費制度、有料老人ホーム、エンディングノート、成年後見制度、葬儀費用、相続税・贈与税、墓・戒名・散骨など、広



い範囲において解説されました。その上で、指針のない今日の状況を乗り越えるためには、われわれ自身の体験や失敗に関する情報を交換して共有し、市民で解決する道筋を見出していくための活動が必要であると締めくくられました。また、来年3月14日（土）に「ガバナンス研究会」主催の研究会合同シンポジウム「全国初の“終活互助”へのチャレンジ」の中で、具体的実践モデルを提示される予定です。

連続講座当日のアンケート結果から、いくつかのご意見を紹介します。

- * 自宅こそ城、もちろん賛成でベストですが、リバースモーゲージがカギかと思う。
- * 親族、友人等とのかかわりにとって学ばねばならないレクチャーです。
- * 情報をもうちよっと思っていく姿勢は大切。
- * 漠然とした知識がたしかなモノとなった。

3. 第6回研究会合同イベント「全国初の“終活互助”へのチャレンジ」のお知らせ

- (1) 日 時： 2020年3月14日（土） 13：30～16：50
- (2) 会 場： 武蔵野徳洲会病院4階講堂
(JR中央線武蔵境駅北口、⑤番 関東バス「ヴィーガーデン西東京行き 武蔵野徳洲会病院前下車、10分)
- (3) テーマ： 全国初の“終活互助”へのチャレンジ
- (4) 共 催： ガバナンス研究会・地域サロンぷらっと
※ 毎年恒例の、研究会合同イベントです。今回はガバナンス研究会(川村匡由座長)の担当です。次号で、改めてご案内いたします。添付するチラシを参照の上、奮ってご参加ください。

4. 研究会からのお知らせ

(1) 第7回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年1月20日（月） 15：00～17：00
- 2) 場 所：上野区民館 201号室
台東区池之端1-1-12 2階
- 3) 概 要：国によるデジタル・プラットフォームへの対応策およびIT 施策の検討のつづき
- 4) 参加費：400円
※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

(2) 第124回 「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年1月22日（水） 18：00～20：00
- 2) 報告者：内匠 功（明治安田生命研究所）
- 3) テーマ：「人生100年時代に備える（仮）」
- 4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階
※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

(3) 第73回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年1月23日（木） 15：00～18：00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第1共同研究室（いつもの会議室ではありません）
- 3) テーマ：『ビブリオ・バトル (Biblio Battle)』方式による読活の展開＜第1回＞
参加者は各自紹介したい本を1冊持参し、プレゼンと質疑応答を行なう
- 4) 参加者：300円
※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願いいたします。

(4) 第4回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年1月31日(金) 18:30~20:00
- 2) 場 所：すみまめカフェ(東京都墨田区京島3丁目39-8 03-6657-5532)
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)すみまめカフェ店長
- 4) テーマ：徘徊できる商店街を考える

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄(mme_masumi@yahoo.co.jp)迄お願い致します。

(5) 第62回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年2月27日(木) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：大澤真理(東京大学教授)
- 4) テーマ：「ジェンダーと災害」(仮)
- 5) 参加費：当分の間、頂戴しません

※ お問い合わせは、福原(fukuhara@jaas.jp)までお願いいたします。

5. 各研究会の概要報告

(1) 第60回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年11月20日(水) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：川村匡由(武蔵野大学名誉教授、シニア社会学会理事)
- 4) テーマ：「防災・減災と地域福祉～社会保障学者としての研究実践を踏まえて～」

はじめに問題の背景として、避難所、仮設住宅、その他と大きく3点を挙げられた。避難所については、行政が指定する避難所や福祉避難所が開設されることになっているが、必ずしも運営がきちんとできる状況とはなっていない上、避難者が入りきらない可能性もあるため、自治会館などを使って住民が運営する自主避難所の位置づけが重要であろうとの提起もなされた。仮設住宅については、建設・借り上げという形で受け入れられるが、居住性や利便性(買い物・通院・通所)、ケア、コミュニティ崩壊などの課題があること。その他としては、集団移転先の用地難や、被災者の生活支援(介護・見守り・手続き代行・買い物・通院介助など)、災害ボランティアセンターなどとの連携や、エリア・マネジメント(特にコミュニティ・ソーシャル・ワーク)などが課題になると指摘された。

こうした複雑な問題に対して、防災福祉コミュニティの形成が求められており、公助>自助>互助>共助のベストミックスによる、危機管理体制の確立が急務であるが、現状は、自己責任や公助の強調とともに、公助の責任が縮減されている危機的状況であると指摘。国家主導により国民生活の中まで社会保障と危機管理が浸透しているスイスの事例とともに、日本の現状を厳しく批判された(中山間地におけるインフラ整備、所得補償、各家庭における核シェルターの確保、観光客の保護等)。

こうした状況を乗り越えていくためには、地域福祉と地域防災の一体化、そして、縦割り行政の弊害を乗り越え、ボトムアップによる取り組みによる、住民と行政の協働のまちづくりが重要であると指摘。そして、公助をベースとしたベストミックスを念頭においた豊富な事例とともに、具体的な対策の方向性を示された(東日本大震災時に、被災した沿岸自治体と隣接する内陸の遠野市を拠点に支援が行われた遠野モデルを例としての、災害時の相互応援協定。コミュニティセンターの防災拠点化。個人による1カ月の備蓄推進、地域レベルでの福祉活動・計画と地区防災計画の一体化など)。

会場からは国防を主体とするスイスと自然災害をベースとする日本との比較について、興味を示されたが、一方では、災害対応の国際比較は何を基準として考えたらよいのか、について大きな課題も提起された。

(浅野幸子 記)

(2) 第2回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

1) 日 時：2019年11月24日(日) 18:30~20:00

2) 場 所：ニコニコ・オーナーズ・スクエア

(東京都新宿区四谷 三栄町15-4 第一原嶋ビル 703)

<https://2525ooya.com/sq/access3pr/>

3) 発表者：リーダー鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)

4) テーマ：徘徊できる商店街を考える

〈徘徊できる商店街を〉

過去に遡り相互扶助の精神である、つけ買いや無尽、頼母子講などを見直し、AIによるデジタル、マーケティング戦略により認知症フレンドリー社会の実現に一致すると考えます。認知症の有無にかかわらず、障害の有無にかかわらず、誰もが希望と尊厳をもって暮らせる社会であるために、徘徊できる商店街の実現を考えます。

〈人形劇、寸劇、詩吟、AIによるロボットのネットワークで共感を〉

重い内容を物語でさりげなく訴えることで共感を得ることを目指しました。デジタルで商店街とのネットワークをつくり、見守りや声掛けなどを行い一方が無尽等を取り入れます。地域に欠かさない商店街の活性化を図ることで、認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域のよい環境で暮らせることにつながります。(鈴木 記)

(3) 第123回「社会保障」研究会報告要旨

1) 日 時：2019年11月27日(水) 18:00~20:00

2) 報告者：藤崎宏子(お茶の水女子大学名誉教授)

3) テーマ：「中年期女性の世代間関係と介護—介護する/される立場—」

4) 会 場：日本労働者協同組合連合会 会議室

東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階

長寿化にともない、高齢期の生き方や政策課題への関心が高まり、これにワンテンポ遅れて、1980年代から中年期の生活課題が浮上してきた。現代の中年世代は、雇用環境や家族の在り方の変化などにより、その生活基盤が不安定化している。加えて中年世代は、長寿化した親世代と、自立が遅れる子世代の間に挟まれ、両者からの支援を求められる「サンドイッチ世代」の様相を呈している。本報告では、「介護」という課題に焦点をあて、中年期女性の親世代への介護経験と、自身の高齢期を見据えた子世代への介護期待との関連を、インタビューデータにもとづき考察することを課題とした。使用したデータは、お茶の水女子大学21世紀COEプログラム(2002~2006年度)の一プロジェクトとして、神奈川県小田原市でおこなわれた質問紙調査の協力者を対象とする追跡的調査により得た。

調査時に49~68歳になっていた55名のインタビュー協力者である中年期女性のうち、自身もしくは配偶者の親への介護経験の有無と、子どもへの介護期待の有無を組み合わせて、対象者を4つの類型に分類した(情報が欠けている事例、子どものいない事例を除く)。①介護経験あり・介護期待あり6名、②介護経験あり・介護期待なし20名、③介護経験なし・介護期待あり8名、④介護経験なし・介護期待なし7名、の4類型ごとに語りの分析をおこなった。その結果をもとに総合的に考察し、導かれた主な知見は次のとおりである。1) 親の介護をした/しなかった経験は、子どもへの介護期待を語る際の重要な準拠点とされていた。2) 子世代への介護期待の有無にかかわらず、自身が親におこなってきた同水準の介護を子世代に求めることは困難だという認識が一般的であった。3) その背景には、子世代に迷惑をかけたくない、その人生を尊重したいという強い願いがある。4) ただし、全般的に弱まりつつある子世代への介護期待のなかで、娘への期待は最後の砦として意識されていた。

身近なテーマであるだけに、参加者からは、それぞれの家族介護の経験や悩みが語られるとともに、「介護する」ことにかかわる課題のみならず、「介護される」立場性についてより深く考えていく必要があるのではないかと提起された。(藤崎宏子 記)

(4) 第17回「ライフプロデュース」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年11月27日(水) 18:00~20:30
- 2) 場 所：内幸町 日本プレスセンター内日本記者クラブ9階ラウンジ
- 3) テーマ：「3年後の自分をバックキャスト・アプローチで描いてみよう！」

まず、耳慣れない「バックキャスト」とは、何か？問題解決の手法には先に現状分析から課題を定義して、その解決策を考える「フォアキャスト」と、先ずは目標・あるべき姿を想定や定義して、それを実現するために今何をなすべきかを考える方法、いわば未来からの発想法が「バックキャスト」です。この発想法に挑戦して、3年後の自分のあるべき姿から現在何をすべきかに挑んだ参加者は80~50代の男女7名。

常日頃とは逆の発想からのテーマだが、参加者全員が積極的に持論を披露し、真剣かつ白熱した討論の中から2例の「3年後」に絞って報告しよう。まず最長老の男性は「私は家の中に閉じこもって外に出ない蟄居(ちつきよ)生活」がイメージ、一人で気の向くまま暮らしたい。大きな変化は求めず、家は古いままでいいし、収入も今の年金レベルが維持されれば十分。ただし、新聞など活字をしっかりと読み、読書量は今のレベルを保ちたい。

80代で現在も大学院博士課程在学中のこの人はさらに「取り組み続けている博士論文のテーマが『意識作用と肉体』でして、つまり『脳が健全でなければ、意識も健全にならないのではないか?』というところなのですが、これがなかなか納得の真理にたどり着かないのですよ」。だから、年数を掛けてでも探求し続けたい。論文完成まで大学に在籍し続ければ学費も掛かるが、「それよりも今は『真理を探究したい』という気持ちの方が強いです」—その意欲の強さに、全員が驚嘆の拍手!

2例目は、最年少の女性の3年後は「ぜひ早々とモノとコトの整理を済ませて置き、『55歳、終活バッチリできている』にしたいと思っています」と、これまた積極組。現在、80代の両親は健在で、子供たちも数年で巣立つであろうという、どこにでもある家庭環境だが—以前、義両親の家を整理した経験から「いわゆる相続とは少し異なる『日常生活のスムーズな引継ぎ』のためにも、些細な情報をまとめていく地道な作業をコツコツやっています」と明言。

例えば、もし私が急に他界したら、周りが大変なことになるのは火を見るよりも明らかだ。日々の買い物はどの銀行カードを使うのか、学費のような多額な支払いはどこから出すのか、固定資産税の請求が来たらだれが払うのか誰が引き継ぐのか・・・「それらを勤務の傍らにやって貰うのは、確実にすごいストレスと疲労でまいっちゃうと思うな。仕事にも影響出るだろうし、ああそれだけは回避したいなあ。自分は無意識にやっている日常のことも、もしこれを誰かがやることになったらどうか、という視点が早々に始めるモノとコトの原点です」—。

※この月例会の詳細は、「ライフプロデュース」研究会のブログをご覧ください。なお、1月は未定です。
(皆川 記)

(5) 第71回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

- 1) 日 時：2019年11月28日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ：大磯コミュニティ・カレッジ特別企画：読活—吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』(岩波文庫)の事前討議
- 4) 発表者：安田コーディネーター、薄井 滋、大下 勝巳、土岐 啓子

安田コーディネーターは、次回の大磯コミュニティ・カレッジとのジョイント企画で、モデレーターを務められることから、当著書を読んで来られない人のことを想定してレジュメをまとめられた。

薄井さんは、今回改めて読んでみて、3つの違和感を指摘された。1つは選良意識と前時代的な社会構造の戦前の見方が反映されている。2つはコペル君は始めから終わりまで行動しない傍観者であること。3つは人間分子の法則という気づきがありながら、「自分がいい人間になる」との自己中心的な倫理観に落ち着いてしまうと集約された。

大下さんは、作者は何を言いたいのかということ念頭においてまとめられた。他者との共存性の中で役に立つ“立派な人間になれ”という父親の言葉を胸にコペル君は生きていく。そこに「君

たちはどう生きるか」という作者のメッセージがあると述べられた。

土岐さんは、再読してみて、3つの問いと感想にまとめた。1つは当著書はどういう時代背景で生まれたのか。2つは叢書『日本少国民文庫』の編纂者山本有三の基本的考えについて。3つは天動説から地動説的考え方への転換についてである。視座の転換は、様々な問題を解決して行くためにも極めて重要な課題であると思うと述べられた。

濱口座長は、日本人は亡命しないということ。これは価値観の所在あるいは構造を考える際に大変重要な問題である。内面に亡命するけれども、外に亡命しない。『君たちはどう生きるか』を亡命しない日本人という側面から考えると面白い。そして『君たちはどう生きるか』の現代版が必要であるとコメントされた。(島村 記)

(6) 第72回「シニア社会のリテラシー」研究会開催の報告

- 1) 日 時：2019年12月5日(木) 14:30 ~ 15:30
- 2) 場 所：JR大磯駅前のエリザベス・サンダース・ホーム地域交流スペース
- 3) テーマ：大磯コミュニティ・カレッジとのジョイント企画
大磯コミュニティ・カレッジ講座50回記念特別企画：読活—吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』(岩波文庫)
- 4) モデレーター：安田 和紘
- 5) 発表者： 当研究会から、薄井 滋、大下 勝巳、土岐 啓子

大磯コミュニティ・カレッジから、尾崎 孝則、富山 昇、南出 要子

会場は、40名の方が参加され盛会でした。60分という限られた時間の中であったため、安田モデレーターの司会の下、6名の発表者の発言時間はかなり短く限られたものになったのは残念であった。6名の方の発表を聞いていて、いろいろな読み方と解釈が存在し、この本の奥深さを改めて認識した。

大磯コミュニティ・カレッジの学長である濱口座長は、最後のコメントの中で、啐啄という言葉がある。あまり使われないが、鳥の雛が自らのくちばしで内側から卵の殻をつついて破ることを啐啄(そつたく)という。この言葉のアイロニーに託して、『君たちはどう生きるか』は啐啄の書物であると言いたいと述べられた。

参加者は読活の後、第2部として、ピアノ・ヴァイオリン公演が開催され、ベートーヴェンとモーツァルトの美しいクラシックの調べを楽しまれた。(島村 記)

(7) 第3回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2019年12月13日(金) 18:30~20:00
- 2) 場 所：ニコニコ・オーナーズ・スクエア
(東京都新宿区四谷 三栄町15-4 第一原嶋ビル 703)
- 3) 発表者：リーダー鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：徘徊できる商店街を考える

〈徘徊できる商店街を〉

過去に遡り相互扶助の精神である、つけ買いや無尽、頼母子講などを見直し、AIによるデジタル、マーケティング戦略により認知症フレンドリー社会の実現に一致すると考えます。認知症の有無にかかわらず、障害の有無にかかわらず、誰もが希望と尊厳をもって暮らせる社会であるために、徘徊できる商店街の実現を考えます。

〈人形劇、寸劇、詩吟、AIによるロボットのネットワークで共感を〉

重い内容を物語でさりげなく訴えることで共感を得ることを目指しました。デジタルで商店街とのネットワークをつくり、見守りや声掛けなどを行い一方無尽等を取り入れます。地域に欠かせない商店街の活性化を図ることで、認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域のよい環境で暮らせることにつながります。(鈴木 記)

(8) 第6回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2019年12月16日(月) 15:00~17:00

2) 場 所：上野区民館201室

3) テーマ：「#リパブリック」(サンスティーン 2018)、「国のIT政策」

4) 発表者：齋田、森

＜齋田さんの報告＞「#リパブリック インターネットは民主主義になにをもたらすのか」のメインテーマの紹介。

偶然の出会いや多くの市民による共通経験の重要性から、インターネットが社会にもたらす影響を論じていると、概要の紹介があった。詳細の紹介は次回以降となる。

＜森さんの報告＞「国のIT政策」の紹介

IT総合戦略本部から「デジタル時代の新たなIT政策大綱」が発表された。また、GAFAへの規制を念頭にデジタル市場競争会議では、デジタル市場のルール整備が進められている。また、総務省の「プラットフォームサービスに関する研究会」ではフェイクニュースや偽情報への対策が検討されており、その中で、情報リテラシー教育の推進が重要とされている。当研究会では、主にシニアに必要な情報リテラシーを検討すべく、調査と研究を進めていくことになった。(森 記)

6. 後援イベント「あなたはどう生きる めざせ生涯現役」のお知らせ

(1) 日 時：2020年2月15日(土) 13:30~16:30

(2) 会 場：横浜市社会福祉センター

(3) テーマ：あなたはどう生きる めざせ生涯現役

(4) 主 催：NPO法人Nippon Active Life Club (略称 ナルク)

後 援：一般社団法人シニア社会学会・横浜市健康福祉局

※ 本学会から、袖井孝子会長が基調講演を行い、澤岡詩野理事も講演を行います。添付のチラシを参照の上、奮ってご参加ください。

7. 事務局からのお知らせ

(1) 忘れ物のお知らせ

去る11月30日(土)東京家政学院大学で開催されました連続講座で、会場の1301教室内に、黒色の女性用帽子の忘れ物があり、現在事務局で保管しています。お心当たりのある方はご連絡ください。1月末で処分させていただきます。

(2) 年末年始のお休み

年末年始のお休みは、12月26日(木)~1月7日(火)までです。新年の事務局は1月8日(水)から開室します。

一般社団法人シニア社会学会・事務局(水、および月または金オープン)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202

電話&FAX:(03)5778-4728

eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>